

平成22・23年度 調査研究 高等学校世界史における生徒の学習課題とその解決に向けた手法の開発 ～「習得」「活用」「意欲」の3つの学力の育成～

1 目的

本調査研究においては、生徒が世界史学習上の課題と感じていることと、教師が生徒を指導するに当たっての課題と考えていることについて情報収集を行い、その結果を多角的に分析し、課題克服の方向性を探究する。また、その課題解決を図るために、生徒の学力向上を図る効果的な指導方法の在り方についての研究を行い、学校現場にその成果を提供することで授業の改善に資する。

2 調査研究の概要

世界史の学力向上を目指すために、本調査研究においては、全国的学力状況との比較で研究をすすめたいと考え、大学入試センター試験の世界史Bへの対応を目的とした授業改善を目指すこととした。そこで、生徒がセンター試験の問題を解くに当たってどのような点に課題があるかの調査を行った。具体的には平成23年度大学入試センター試験後、3年生を指導した世界史担当者に対して電話での聞き取り調査を行った。(図1①)。

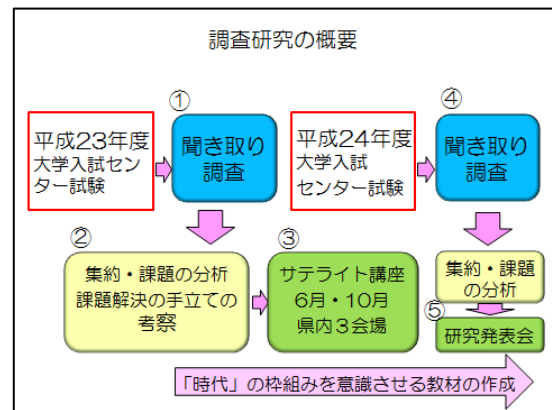


図 1

次に、収集した情報を分析し、本県高等学校の世界史の学習及び指導における課題の特定とその解決の手立ての考察を行った(同②)。そして、ここまでの結果の概要を、平成22年度の途中報告として教育センターのWebページに掲載した。

平成23年度は、サテライト講座を実施し、県内高等学校の世界史担当者に、これまで収集・分析した内容やそこから導き出した課題を提示し、課題解決のための手立てについて協議を行った(同③)。

平成24年度の大学入試センター試験後にも、前年同様の聞き取り調査を行い(同④)、前年度との比較や提示した課題の妥当性について考察した。そして、その考察した内容について、平成24年2月に実施した、教育センターの研究発表会で報告を行った(同⑤)。

今回の調査研究では、県内20校の世界史担当者から情報を収集し、その分析結果等をサテライト講座やWebページ等を通して県内の世界史担当者に還元した。また、サテライト講座を実施したことで、世界史担当者が問題意識を共有し、世界史の指導の在り方等について協議する場を設けることができ、さらに世界史担当者のネットワークづくりにも貢献できた。

3 平成23年度大学入試センター試験に関する調査及びその分析について

(1) 聞き取り調査

平成23年度大学入試センター試験後、次のア～ウについて、県内20校の世界史担当者から電話で聞き取りを行った。(平成23年2月)

- ア. 平成23年度センター試験世界史B問題(36問)中、生徒の正答率が低いと感じたのはどれか。(5問程度)
- イ. その問題の正答率を上げるために、どのような授業・取組を実施すべきだったと考える

か。(指導計画、学習教材等)
 ウ. 生徒の学習意欲の向上のために、どのような手だてを取るべきだったと思うか。

(2) 調査後の分析

(1) のアから正答率が低いと感じた問題を抽出し、それに対する分析を行い、対策の方向性を検討した。

① 20名の回答者中、5名以上選択した問題数=9問(全36問中) [表1参照]

表1

問題番号	選択者数	出題形式(36題中)					時代判別の要素	備考 (ジャンル等)
		正四択	誤四択	時代整序	組合四択	二文正誤		
		17	6	3	4	6	12	
3	8		○				○	文化
5	6					○	○	文化
6	6			○			○	イギリス革命詳細
12	8	○					○	時代整序
15	6			○			○	時代整序
17	10					○	○	中国社会経済
21	5	○						各国社会経済
25	5					○		文化
36	18					○	○	インド近代詳細
計		2	1	2	0	4	7	

② 本県の生徒の正答率が低いと感じる問題の傾向

聞き取り調査の結果、生徒の正答率が低いと多くの担当者が選択した問題は、ギリシア・ローマの文化史に関する時代判別の問題(表1の問題番号3)、ヨーロッパと朝鮮に関する時代判別の要素が入った問題(同12)、及び中国の宋から明にかけての社会経済史に関してやや長めの文章の正誤を判断する問題(同17)であった。

これらの問題から、時代判別の要素が入った問題及び基本的な歴史事象の正確な判断が求められる問題などに、正答率が低いと考えられる傾向があると考えた。そこから、指導上の課題として「時代」の枠組み(「フレーム」)の理解・定着と活用と基本的な歴史事象の正確な理解と定着に課題があるのではないかと仮説を立てた。

- ・時代判別の要素が入った問題=7問(①の9問中の数)
- ・2文の正確な正誤判別の問題=4問(①の9問中の数)

また、担当者からの選択は少なかったが、数校の担当者が行った答案分析などから、キリスト教に関する基本的な事項を問う問題(同14)、中国の現代史に関する基本的な事項を問う問題(同26)についても正答率が低いことが見てきた。このことから、現代史・文化史・社会経済史などの時代や分野を生徒が弱点としているのではないかと考えた。そこから、時代や分野にばらつきのない基礎的・基本的事象の理解や定着にも指導上の課題があるのではないかと仮説を立てた。

③ 対策の方向性

次に、②で立てた仮説をもとに、日常の指導においてどのような手立てが有効であるかを考察し、以下の対策を提示した。

- ・「時代」の枠組み(「フレーム」)の理解・定着と活用に対する手だて

世界史学習における事項を理解・定着させる枠組みとして、時間軸と空間軸からなる世界史認識のフレームを、生徒の中につくる指導を充実させる。そのために、枠組みを意識さ

せる教材を作成し日頃の授業で活用していくことが必要である。

・基本的な歴史事象の正確な理解と定着に対する手立て

学習事項を網羅的・表面的に扱うのではなく、事項に関する基本的な知識を理解させ、それを活用して思考できる力を身に付けさせる指導を充実させる。

・時代や分野にばらつきのない、基礎・基本事象の理解・定着に対する手立て

授業マネジメントの手法の活用による、計画的指導を実践する。目的と手法の明確化を意識する。目的の第一は「課題の解決」にある。課題を解決するために、重要語句の理解と関係性の定着を図りながらも、生徒に苦手なところをつくらせないためのメリハリのあるマネジメントを行っていく。

(3) 出題形式の傾向についての分析[表2]

平成23年度までのセンター試験世界史B(本試)の問題の出題形式について調べ、出題傾向の特徴について分析を行った。[表2参照]

表2

年度	出題形式					時代判別の要素	地図の要素
	正四択	誤四択	時代整序	組合四択	二文正誤		
H17	28	1	0	6	1	12	3
H18	25	1	2	6	2	12	4
H19	28	2	1	4	1	9	4
H20	26	1	2	4	3	4	6
H21	20	5	0	5	5	8	3
H22	19	4	0	7	6	12	2
H23	17	6	3	4	6	12	1

〈出題傾向の特徴〉

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ① 時代判別の要素が入った問題の増加 | ② 3つの事項を年代順に並べる問題の増加 |
| ③ 2文の正確な正誤判別の問題の増加 | |

①については、以前から頻出であったが、近年の傾向として、同時代(同世紀)あるいは異なる時代のものを選ばせる問題が増えている。また時代判別の要素が入った出題形式のひとつである②については、平成23年度は3題出題された。

①②③については、聞き取り調査の結果から、指導を工夫するなど早急な対策が必要とされる。

学習指導要領に示されている世界史Bの目標は次の通りである。

新学習指導要領	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
現行学習指導要領	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

(アンダーラインは執筆者が付した)

時代判別の要素が入った問題は、時代の枠組み同士を対比させて前後関係を判断したり、因果関係を考えたりするものであり、新旧の学習指導要領にある「世界の歴史の大きな枠組みと展開を理解」しているかを問うものでもあることから、学習指導要領の目標が求められるところの

歴史的思考力を問うには最適の形式であると考える。

また、事項を年代順に並べる問いの形式は、歴史学習においてはオーソドックスな形式でありながら、これまでのセンター試験ではあまり出題されていなかった。この形式は、新学習指導要領で新しく導入された「主題を設定して行う学習」において習得させる技能に通じるところがある。以下に「主題を設定して行う学習」における関係箇所を示す。

(2) 諸地域世界の形成

エ 時間軸からみる諸地域世界

主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。

新学習指導要領は平成25年度からの実施であり、現段階で大学入試センター試験がそれに準拠して出題されるわけではない。しかしながら新学習指導要領が意図する学習の在り方の本質については現行学習指導要領にも含まれており、改訂によりさらに明確になったと考えることができる。

4 調査及び分析結果の共有

(1) サテライト講座の実施

平成23年度大学入試センター試験の分析から得た課題を世界史担当者の課題として共有し、さらに授業における課題解決の手だてを提案し、それを協議するために、平成23年度に県内3会場で2度のサテライト講座を実施した。その中で、共に考え、行動するネットワークの構築についての働きかけを行った。

① サテライト講座の目的（実施要領より）

平成22年度における各高等学校世界史担当者の教科指導に関する反省点や気づきの集約を平成23年度の担当者で共有し、併せて、平成23年度における教科指導の在り方について協議することによって、生徒の学力の伸長に資する。

② 実施期日、会場及び主な研修内容

	県南会場	県北会場	県央会場	主な研修内容
第1回	6月13日	6月14日	6月15日	[公開授業] 5校時目の時間帯（世界史B） [講義] 平成22年度世界史担当者の教科指導に関する反省点等の集約・分析 [研究協議] 今後の教科指導について
	長崎西高	佐世保北高	諫早高校	
	12名	8名	6名	
第2回	10月3日	10月4日	10月6日	[講義] 総復習（同時代史、各国史等）についての考え方 [研究協議] 今後の教科指導について
	大波止ビル	県北振興局	教育センター	
	10名	5名	4名	

※第2回においては、同時代史・各国史などの「総復習」に用いるプリントのうち1テーマ分を持参し共有した。（例：16世紀のヨーロッパ史、東南アジア史）

③ 受講者（世界史担当者）の感想

- ・本県の大学入試センター試験における実態とこれからの課題について十分に理解できました。
- ・適切な解説と分析がなされていて大変良かったと思います。
- ・世界史に特化したこのような研修はこれまでなかったように思います。教科指導に関して、日ごろ同じ教科の先生と話す機会がないので、とても勉強になりました。

- ・参加したい研修があっても、授業や学校行事等で参加をためらう場合があります、このように3回も開いていただくと、日程で一番都合のよい日を選ぶので助かります。
- ・授業も見ることができ、現場にあった形態で、とても良いと思います。近くで助かります。

(2) サテライト講座で共有化した課題と、それに対する手立て

- ① 「時代」の枠組み（「フレーム」）の理解・定着とその活用に課題
→授業で育てる、「時代」の枠組み（「フレーム」）作り。そのために、枠組みを意識させる教材を作成し、日常的に活用する。
- ② 基本的な歴史的事象の正確な理解と定着に課題
→「枠組み」を意識した基本的な事象の理解（4W1Hを意識した理解）と、歴史的事象をつなげる理解（因果関係・階層関係を把握したり、類似関係に着目して理解する）を意図した授業展開を実践する。
- ③ 時代や分野にばらつきのない、基礎・基本事象の理解・定着に課題
→授業マネジメントの手法の活用による、計画的指導を実践する。目的と手法の明確化を意識する。第一の目的は「課題の解決」にある。課題を解決するために、重要語句の理解と関係性の定着を図りながらも、生徒に苦手なところをつくらせないメリハリのあるマネジメントを行っていく。

(3) 枠組みを意識させる教材について

① 概要

新学習指導要領解説において、世界史Bは「世界の歴史の大きな枠組みと展開を、各時代、各地域の歴史の重要な事項を中心に学ぶ科目である」とされており、また、時代区分や地域区分については、「生徒が世界の歴史の大きな枠組みと展開を把握しやすいような内容構成である」とされている。

しかし、例えばローマ帝国が滅亡したかと思えば次の時間はインダス文明の学習に入るというように、急に時代をさかのぼったり、地域が変わったりと場面転換が著しく、生徒によっては自分が今、どの地域のいつの時代のことを学習しているかを見失うような状況がある。

時代の枠組みを意識させる教材（以下、「枠組み教材」）は、生徒たちに自分が学習している内容が、世界の歴史の中でどの位置なのかを確認させたり、これからどうなるのかの見通しを立てさせたりしながら、大きな枠組みの感覚を身に付けさせることを意図した教材である。

「枠組み教材」は、全体を示すプリント（図2）とそこで示された番号により35の分野で構成し、1分野あたり1枚～3枚のシートで構成している。各シートで、大きな時代の枠組みを概観し、把握できるように構成している。シートでは枠組み内の重要な事項や年代が確認でき、時代や地域によっては、複数の国を横に並べて比較できるようにしている。[別添 冊子資料 参照]

② 「枠組み教材」の活用について

教育センターが提供する枠組み教材はMicrosoft®社のExcel®ワークシートで作成している。世界史Bの学習で基本とされている重要な事項の他、補足的な内容もあらかじめ記載している。これは授業担当者の工夫により、有意義な教材に加工してもらいたいためである。

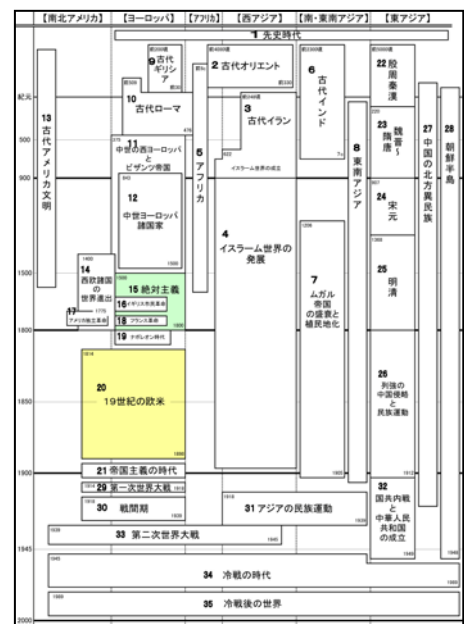


図2

活用の仕方としては、あらかじめ事項が記載されている教材を配付し、授業の際に大枠の学習内容を確認させながら学習を進めたり、定着させたい内容は（ ）の状態にしておき、家庭学習で記入させたり、基本的な事項を自分の言葉で書かせたりする欄を用意しておく等が考えられる。授業担当者の使用目的やアイデアによりどのよう

にでも編集できる。
例えば、図3は絶対主義に関するシートのフランスの一部を示している。左は事項を記載している状態で、中は定着させたい事項を（ ）抜きにしている。右は、基本的な事項は記載しているが、重要な事項を自分で書かせるようにしている。

(4) Webサイトを活用した連携

○ 教材の共有の提案

第1回サテライト講座において、枠組み教材の「素材」を教育センターのWebページからダウンロードし、それを各自で加工し、その加工したものを教育センターのWebページに、加工の方針や意図を添えて掲載することを提案した。

【フランス絶対主義】	【フランス絶対主義】	【フランス絶対主義】
ヴァロア朝 1328～1589 [アンリ2世] 1515～47 1521 イタリア戦争(～44) ↳カール5世と対立 1536 オスマン帝国から対「チュレリオン」	ヴァロア朝 1328～1589 [] 1515～47 1521 イタリア戦争(～44) ↳カール5世と対立 1536 オスマン帝国から対「チュレリオン」	ヴァロア朝 1328～1589 [アンリ2世] 1515～47 1521 イタリア戦争(～44) ↳カール5世と対立 1536 オスマン帝国から対「チュレリオン」 カピチュレリオンとは？
1562 ユグノー戦争 ～98 1572 サン＝バルテルミの虐殺 ブルボン朝 1589～1830 [アンリ4世] 1589～1610 ユグノーの首領、ナントに改宗 1598 ナントの勅令 廃止	1562 () 戦争 ～98 1572 サン＝バルテルミの虐殺 ブルボン朝 1589～1830 [] 1589～1610 ユグノーの首領、ナントに改宗 1598 () 廃止	1562 ユグノー戦争 ～98 1572 サン＝バルテルミの虐殺 ブルボン朝 1589～1830 [アンリ4世] 1589～1610 ユグノーの首領、ナントに改宗 1598 ナントの勅令 廃止 特徴・意義
[ルイ13世] 1610～43 1614 以後、三部会の招集を停止 宰相:リシュリュー ・王権の強化を推進 ・三十年戦争に干渉 [ルイ14世] “太陽王” 1643～1715 宰相:マザラン ↳フロンドの乱 鎮圧 1661～ ルイ14世の親政 王権神授説“朕は国家なり” 財務長官:コルベール ↳重商主義の推進 ヴェルサイユ宮殿の造営 対外的侵略戦争 自然国境論 ①南ネーデルラント継承戦争 ②オランダ侵略戦争 ③フラルツ継承戦争 1685 ナントの勅令 廃止 1701 ④スペイン継承戦争	[] 1610～43 1614 以後、三部会の招集を停止 宰相:() ・王権の強化を推進 ・三十年戦争に干渉 [] “太陽王” 1643～1715 宰相:() ↳フロンドの乱 鎮圧 1661～ ルイ14世の親政 王権神授説“朕は国家なり” 財務長官:() ↳重商主義の推進 ()宮殿の造営 対外的侵略戦争 自然国境論 ①南ネーデルラント継承戦争 ②オランダ侵略戦争 ③フラルツ継承戦争 1685 ナントの勅令 廃止 1701 ④スペイン継承戦争	[ルイ13世] 1610～43 1614 以後、三部会の招集を停止 宰相:リシュリュー ・王権の強化を推進 ・三十年戦争に干渉 [ルイ14世] “太陽王” 1643～1715 宰相:マザラン ↳フロンドの乱 鎮圧 1661～ ルイ14世の親政 王権神授説“朕は国家なり” 財務長官:コルベール ↳重商主義の推進 ヴェルサイユ宮殿の造営 対外的侵略戦争 自然国境論 ①南ネーデルラント継承戦争 ②オランダ侵略戦争 ③フラルツ継承戦争 1685 ナントの勅令 廃止 1701 ④スペイン継承戦争 重商主義とは？

図3

5 平成24年度大学入試センター試験に関する調査及びその分析について

平成24年度センター試験後にも前年と同様の聞き取り調査を行い、前年度に課題として設定した事項についての検証を行った。

(1) 聞き取り調査

平成24年度大学入試センター試験後、次のア～エについて、県内20校の世界史担当者から電話で聞き取りを行った。(平成24年2月)

- ア. 平成24年度センター試験世界史B問題(36問)中、生徒の正答率が低いと感じたのはどれか。(5問程度)
- イ. その問題の正答率を上げるために、どのような授業・取組を実施すべきだったと考えるか。(指導計画、学習教材等)
- ウ. 本年度行った対策が、どのような成果をもたらしたか。
- エ. Web提供教材は使用したか。

(2) 調査後の分析

(1)のAから正答率が低いと感じた問題を抽出し、それに対する分析と対策の方向性を検討した。

- ① 19名の回答者中、5名以上選択した問題数＝9問(全36問中) [表3及び【資料】p.10～参照]

表 3

問題 番号	選 択 者 数	出 題 形 式 (36題中)					時代判別 の要素	備考 (ジャンル等)
		正四択	誤四択	時代整序	組合四択	二文正誤		
		13	6	4	6	7		
6	7		○					周辺 (中央アジア)
9	14			○			○	文化 (ルネサンス)
11	5		○				○	周辺 (シベリア)
12	9	○					○	日本 (日露史)
16	9			○			○	周辺 (ヴェトナム)
17	5					○	○	日本 (外交)
29	7			○			○	周辺 (中国影響)
31	6				○			文化 (インド言語)
32	9					○		文化 (インド文字)
計		1	2	3	1	2	6	

②本県の生徒の正答率が低いと感じる問題の傾向 (数は①の9問中の数である)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ・時代判別の要素が入った問題＝6問 | ・時代整序に関する問題＝3問 |
| ・現代史に関する問題＝3問 | ・日本との関連で出題される問題＝2問 |

今年度のセンター試験の問題を出題形式などから見ていくと、時代判別の要素が入っている問題は、昨年度に比べて4問多くなり全体で16問の出題であった。その中で時代整序の問題は、昨年度に比べて1問多くなり全部で4問出題された。また、今年度は現代史の割合が高くなり、選択肢の一部に現代史に関するものも含め9題の出題であった。

電話での聞き取り調査では、時代判別の要素が入った問題及び時代整序に関する問題について、生徒の正答率が低いと感じるとの回答が多かった。また、現代史に関する問題、その中でもロシアに関連する2つの問題 (表3中の問題番号11・同12) 及び、ヴェトナムに関する問題 (同16) が生徒の正答率が低いと回答する担当者が多かった。時代判別の要素が入った問題や現代史の指導に課題があることについては昨年度と同様である。さらに、日本と周辺諸国との結びつきに関する問題についても回答が多かった (同12・同17)。これらの問題についても、時代判別の要素が含まれていた。

③課題とその対策の方向性

- ・時代判別の要素が入った問題及び時代整序に関する問題

昨年も手だてとして提案したが、時間軸と空間軸からなる世界史認識の枠組み (フレーム) を、生徒の中につくる指導を充実させる。そのために、枠組みを意識させる教材を作成し、日常的に活用する。

- ・現代史に関する問題

年間を通じての授業マネジメントを適切に行い、現代史の学習時間を確保する。

- ・日本との関連で出題される問題

日本や琉球の歴史、或いは朝鮮半島、東南アジアの歴史などは、教科書を一通り学習した後の総復習などの時間に、中国の各王朝とのつながり (横のつながり) を明確にしながらか、当該地域を縦断する通史的なまとめを行う。

また、中学校における学習内容や学習の在り方を理解しておくことが求められる。

新学習指導要領では「世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ」とある。センター試験においても、地理的な要素

や日本の歴史との関連性に関しての問題が重視されていくのではないかと推測する。今後、特に配慮が必要となる要素であろう。

(3) 今年度行った効果的な指導の事例について（聞き取り調査 ウ）

各学校において今年度行った指導事例の中で、効果的であった事例の主なものを次に挙げる。

- ① 細かい年代よりも、何世紀の出来事かを意識させながら授業を行った。
※「〇世紀の出来事に関して～」の問題に対応できるようになった。
- ② データを取ったわけではないが、時代のフレームを意識させる教材は、生徒の歴史観を育む上でも有効だった。
- ③ 生徒の語彙力を高めるための小テストの実施。同じ問題を続ける。問題は、教科書の本文から。次のステップを踏む。
1)空欄補充 2)空欄以外から出題（空欄を新たに作る）。
- ④ 問題演習を確実に行った。知識をつなげるような工夫を行った。過去問を分類しているので、弱点分野にあわせて、教材をピックアップしてやらせた。
- ⑤ 模試の解答分析を行い、復習する分野の優先順位がつけられるようになった。
- ⑥ 黒板が使えない教室で授業をせざるを得なくなった時、プレゼンテーションソフトを用いて行ったが、平板な授業にならないよう、歴史の流れを示したり、焦点化するなど工夫した。演習の解説や、復習にも活用できた。

(4) Webサイトの教材について（聞き取り調査 エ）

Webサイトに掲載した教材の活用事例についての報告は、今年度ほとんどなかった。来年度から活用するという意見が多かったので、今後は、Webページでの資料の受け渡しの方法の周知や、作成に当たって工夫した点などの情報を共有する方法を考えなければならない。

6 成果と課題

(1) 成果

大学入試センター試験の実施要領には、「大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的」とし、「出題は、高等学校学習指導要領に準拠して行う」となっている。このことから、奇問珍問の類は出題されるようなことはなく、理解力や思考力を問う良質な問題がほとんどであり、高等学校における世界史学習の到達度を測るにふさわしい考え抜かれた問題であると実感した。

大学入試センター試験を標準的な基準と捉え、「センター試験において生徒の正答率が低いと感じた問題はどれか」、「その問題の正答率を上げるために、どのような授業・取組を実施すべきだったと考えるか」という切り口から、指導する担当教員が日頃の指導の在り方がどうであったかを振り返るなど自己検証する機会となったと考える。

また、その情報の収集・分析を行って、長崎県の世界史学習において課題となっていることについて仮説を立て、複数の学校の担当者間で課題意識を共有したり、授業の進度や進め方について情報交換を行った。このことは、各学校において1人ないし2人で取り組んでいる世界史の指導を客観的にとらえ直す機会となり、授業改善の足がかりになったのではないかと思う。

(2) 今後の課題

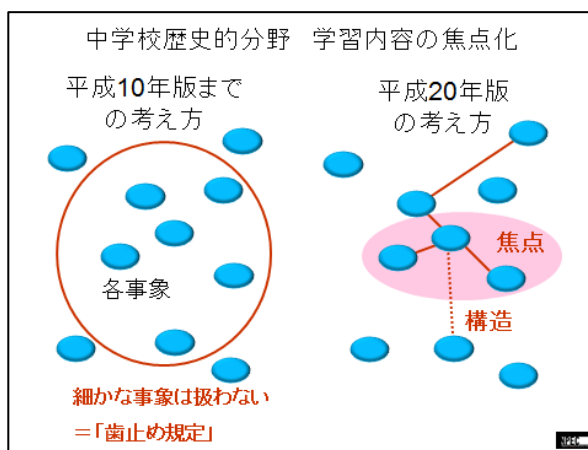
「センター試験において生徒の正答率が低いと感じた問題はどれか」という問いに対して、今年は現代史に関する問題をあげる担当者が多かった。そして、その理由に、時間の都合で、

現代史を十分には指導できていないというものが散見された。

多くの学校において2年間で世界史Bを履修することになっているが、以前と比べると単位数が減っており（特に理系）、その単位数での授業計画が十分に立てられていないことが推測できる。限られた授業時数の中で計画的にバランスよく授業を進めていくために、現在の授業計画を大きく見直し、単元あたりの授業時間や1時間あたりの授業構成を再編成することが、多くの学校に求められている。

生徒の世界史学習の理解を深めながら、授業の進度を確保していくためには、授業内容の精選、焦点化が必要である。その際に参考になるのが、新学習指導要領における中学校社会（歴史的分野）の考え方である。

歴史的分野では、歴史分野の学習の中心が「我が国の歴史の大きな流れ」の理解であるとの趣旨から、すべての中項目のねらいを、「『AがBであったことを理解させる』という明確な焦点や脈絡をもった命題の形で示



すことにした。その焦点に深くかかわる学習内容ほど、十分な時間をかけ学習方法を工夫して、より深く確かな理解が図られなければならない。反対に、それとのかかわりが低い事象は、必ずしも取り上げられるべきではないことになる。」（解説p.13）と示している。高等学校においても、限られた時間の中で古代から現代の歴史まで学習し、生徒の理解や定着を深めるためには、このような学習内容の焦点化も考える必要がある。

平成25年度から学年進行で新学習指導要領が実施されていく。本格的実施の前に新学習指導要領に準拠した授業計画の策定が望まれるところである。担当者間のネットワークを活用して、生徒の実態や文理の単位数、選定した教科書が同じような学校の間で、協働して授業計画案を作成していくような取組を今後提案していきたい。

【資料】

2012年大学入試センター試験において生徒の正答率が低いと思われる問題の分析

解答番号 9	時代整序・時代判別・文化史	14名／19名
設問内容	年代の古いものから順に正しく配列 a：エラスムスが『愚神礼讃』を書いた。 b：ペトラルカが、抒情詩を作った。 c：セルバンテスが『ドン＝キホーテ』を著した。	
設問分析	○時代整序問題の発展型で、ルネサンス文化で学習する人物を、活躍の順番に並べる問である。 ○イタリア＝ルネサンス、アルプス以北のルネサンスという地域・時代の枠組みに入れ、判別する。どの地域で活躍した人物かの理解が必要である。 ○エラスムスとセルバンテスについては、他の歴史的事象とのつながりを知らなければ容易に判別できない内容である。 例) ・エラスムス…エラスムスが産んだ卵をルターが孵した。 ・セルバンテス…レパントの海戦(1571)に従軍した。	
授業者コメント	・ルネサンスに関連する人物の年代整序のような問い方はこれまでなかった。人物と関連する歴史事象などから判断するしかない。 ・年代を問われると難しくなる。イタリアからアルプス以北に北上ということが分かる生徒はできたのではないか。 ・文化史に年代が絡んでおり難。教科書に書かれていない情報。	
対策の方向性	○文化に関する学習は、網羅的・羅列的な学習になりがちであるので文化史の学習においては、主要な人物や作品について多面的な学習が望まれる。 ○特に、歴史的イベントと関連したり、ある時代を象徴したりするような作品や人物については、歴史的な意義などについても学習することが望まれる。	

解答番号 12	正四択・時代判別・日本関係史（日露史）	9名／19名
設問内容	日本とロシアの関係の歴史について正しいものは、 ①アレクサンドル1世が、ラクスマンを日本に派遣した。 ②日露戦争の結果、日本は樺太全島を領有するようになった。 ③日ソ中立条約が結ばれた後、第二次世界大戦が始まった。 ④日ソ共同宣言が出された後、日本は国際連合に加盟した。	
設問分析	○基礎的・基本的な内容に関する正誤問題である。 ○日本に軸をおいた国際関係に関する出題形式はこれまであまりなかった。 ○選択肢④の「日ソ共同宣言が出された後、日本は国際連合に加盟した」との内容は、山川出版社「詳説世界史」には記載されていないが、中学校社会科歴史分野での既習内容である。	
授業者コメント	・日ソ共同宣言は詳細すぎる内容ではないか。③④で迷うのでは。 ・最後まで満遍なくきちんと学習していないと解けない、正確な理解が求められている問題。	

	・日本と世界史の関係には注意していたが、ロシア(ソ連)は対策が薄かった。しかも時間的に扱うのが不十分な現代史(日ソ共同宣言)を判別するのは難しかった。
対策の方向性	○ロシア、中国、朝鮮、アメリカなどとの国際関係については、主題学習などでテーマを設定して、まとめさせるなどの工夫が求められる。

解答番号 16	時代整序・時代判別・現代史・周辺（ヴェトナム史） 9名／19名
設問内容	中越戦争の時期は①～④のいずれか。 <input type="checkbox"/> ① 1962 中印国境紛争 <input type="checkbox"/> ② 1969 中ソ国境紛争 <input type="checkbox"/> ③ 1975 ヴェトナム戦争終結 <input type="checkbox"/> ④
設問分析	○現代史に関する、基礎的・基本的な内容に関する正誤問題である。 ○東南アジアの現代史の学習の中で、ヴェトナム戦争前後のヴェトナム史について確認する問題である。 ○ヴェトナム戦争 → 社会主義政権による統一 → カンボジア内戦 → 中越戦争 → ドイモイ政策 ○現代史の学習内容を定着させる、時間と工夫が必要とされる内容である。
授業者コメント	・中越戦争自体は授業であまり触れていない。ヴェトナムについては、はまって授業をしていない。WWⅡ以後、あまり時間を取れなかった。 ・現代史であること。あわせて時代判別の要素が組み込まれていること。
対策の方向性	○現代史の学習を計画的に行う。年間を通じての授業マネジメントが必要である。

解答番号 17	文章の正確な正誤判断・時代判別・日本（外交） 5名／19名
設問内容	a：琉球は島津氏に支配されると、中国への朝貢を断絶した。 b：3世紀に卑弥呼が、魏に朝貢使節を送った。
設問分析	○正確な内容・用語の判別及び時代判別を要求される問題。 ○bの、卑弥呼に関する記述は中学校でも学習する基本的な内容である。 aの、琉球と島津氏との関係、明清への朝貢についても基本的である。 ○魏志倭人伝などから、卑弥呼が使節を送った王朝が魏であると多くの受験者が判断できると思うが、それが3世紀であったかどうか判断できていない者もいたようである。三国時代の歴史的な位置付け（220年から始まる）という基本的な事柄については定着させておくべき内容である。 ○琉球の扱いが教科書では中国史との関係で分断されており、まとまった形で学習ができにくく、認識の深まりにかけられる分野でもある。
授業者コメント	・aの文章について、中国への朝貢についての学習をしていない。 ・aの文章の判断が難。朝貢関係、海禁策についての理解が及んでいないのではないか。
対策の方向性	○中国史の基本的な王朝については、前後関係はもちろんのこと、始まりの年代、滅亡の年代、建国者名、都の名前は定着させる工夫が必要である。

	<p>○日本や琉球の歴史、朝鮮半島や東南アジアの歴史など、中国史との関係で教科書において飛び飛びに出てくる地域の歴史については、復習などの時間に地域を縦断する通史的なまとめを行うことが求められる。</p> <p>○その際、中国の各王朝とのつながり（横のつながり）を明確にしておく。</p>
--	--

※選択した方は少なかったが、特徴的な問い

解答番号	14	誤四択・地域縦断・現代史	2名／19名
設問内容	<p>ドイツの歴史について述べた文として誤っているもの、</p> <p>①第二次世界大戦後、米・英・仏・ソ4カ国によって分割占領された。</p> <p>②西ドイツは、ワルシャワ条約機構の一員となった。</p> <p>③東ドイツは、東西ベルリンの境界に壁を建設した。</p> <p>④ニュルンベルク国際軍事裁判によって、ナチス＝ドイツの指導者が裁かれた。</p>		
設問分析	<p>○戦後のドイツの歴史について問う基本的な問題である。</p> <p>○①②③はドイツのみならず東西冷戦構造を理解するうえで、とても基本的な内容である。</p> <p>○ニュルンベルク国際軍事裁判については、ドイツの戦後処理の学習で分割占領の陰に隠れがちになるところであり、指導の盲点かもしれない。</p>		
授業者コメント	特になし		
対策の方向性	<p>○冷戦構造そのものについては、指導する教師の生活体験と、学ぶ側の生徒の感覚とのギャップがたびたび指摘されている。</p> <p>○これぐらいの説明で誰でもわかる、という感覚ではなく、現代史についても他の分野と同様、理解をきちんとさせたいところは、時間をかけて学習するようにしなければならない。</p> <p>○現代史に関しては、これから生きる高校生にとって、世界史学習で学ぶべき中核であり、必要な時間をかけて指導しなければならない。</p>		